



愛媛大会

アンケートからわかること

地域づくり団体全国協議会事務局

地域づくり団体全国協議会では、第26回地域づくり団体全国研修交流会愛媛大会の実施にあたり、参加者にアンケートをとらせていただきました。ここでは、アンケートの結果の一部と、その考察について御報告いたします。

愛媛大会には、全国から322名の方が参加されました。その割合は、北海道・東北地方7%、関東地方18%、中部地方11%、近畿地方5%、中国地方11%、四国地方26%、九州・沖縄地方22%となっています。開催地である四国地方が最も割合が大きいのは当然と言えますが、遠く東日本からも多くの方が参加していることがわかります。また、九州・沖縄地方からも、次回大会の開催地である佐賀県を筆頭に多くの参加があり、地域づくり活動への熱心な取り組みを感じることができま

す。全国から集まった322名の参加者のほか、各分科会の担当団体として参加された方なども加えると、参加者総数は3倍以上にもなります。愛媛大会は、千名近い方々が共に意見を述べ、情報を交換し、熱い想いを語りあう、まさに地域づくりの祭典と言えるものでした。

全体会では、大会実行委員長の若松進一氏とゲストコメンテーターの土井中照氏の進行により、会場参加型のトークセッション「みんなで地域づくりト



トークセッションの様子

ーク！」が行われました。「地域づくり活動を漢字一文字で例えらると？」などの問いが会場に投げかけられ、参加者は用意された「喜」「怒」「哀」「楽」といった四つの選択肢から答えを選びました。アンケートには、「講師の方の講演やパネルディスカッションをただ聞いているのではなく、トークに参加することで会場に一体感が生まれました」「地域づくりのキャリアスマである若松氏から、経験に裏打ちされたお話を聞くことができ、大変に参考になりました」という感想が多く見られました。また、回答の選択肢を選ぶときに、ただ手を挙げるのではなく、「喜」を



全国から集まった参加者の皆さん

選んだ人は愛媛みかん、「怒」を選んだ人は今治タオルを掲げるといった具合に、より大会に親しみを持たせる工夫も好評でした。

全体会終了後、参加者は分科会会場へ移動し、地元地域づくり団体が中心となつて準備した分科会に参加しました。それぞれの分科会ごとに独創的な取り組み

みがされていましたが、全ての分科会で共通して寄せられた感想が3つあります。それは、「地域を愛し、地域づくりを熱心に取り組む姿に感動しました」「とても親切に、心のこもったおもてなしをいただいで感激しました」「全国の方々と交流できる場を作っていたいただき、感謝しています」というものです。

これらの感想は、ざつくばらんな座談会や、夜なべ談議の時間を充実させた分科会ほど多く寄せられたようです。参加者の多くが、交流により地域づくりの知恵や活力を得るほか、ネットワークづくりを期待していたことがうかがえます。全体会の参加型トークセッションが好評だったことも共通しているといえるでしょう。

その他の感想には、「もっと交流を深め、意見を交換したかった。分科会がもう1日長ければ良かった」「どの分科会にも興味があり、体が一つでは足りなかった。それぞれの分科会で、どのような取り組みがされたのか、是非教えて欲しい」などというものもありました。限られた時間の中で、会場移動や昼食なども済ますため、時間が不足してしまうことがあります。今後の課題として検討すべきですが、内容の素晴らしさを証明する感想であることを嬉しく思います。それぞれの分科会の取り組みについては、



体験交流の様子(砥部町第14分科会)

愛媛大会実行委員会が作成する大会報告書をお待ちください。

以上のように、大会アンケートからは愛媛大会が大成功をおさめ、参加者が非常に満足できた事がよくわかりました。次回の佐賀大会では、愛媛大会に負けない成果が得られることを期待しています。

佐賀大会は平成22年2月5日(金)、6日(土)に佐賀市を中心に、13分科会が開催予定です。皆様の御参加をお待ちしています。